

「学級や集団の力を生かす体験学習法指導者講習会」

1. 趣旨 冒険教育の手法や考え方について体験を通して学び、学校教育や学級経営、社会教育等の場で活用できる、集団の中での望ましい人間関係づくりや個人の成長を促すための指導技術を身につける。

2. 事業の概要

- (1) 期 日 ①令和4年4月29日(金)〔日帰り〕
②令和4年7月9日(土)〔日帰り〕

(2) 参加者 38名(学校関係者・シニアリーダー・学生・など)

		10代	20代	30代	40代	50代	合計	
第1回 4月29日	男性	0名	7名	2名	1名	0名	10名	14名
	女性	0名	1名	3名	0名	0名	4名	
第2回 7月9日	男性	1名	8名	1名	0名	1名	11名	24名
	女性	3名	7名	3名	0名	0名	13名	
合計		4名	15名	13名	1名	0名	38名	

3. 企画運営のポイント

- (1) MAP(みやぎアドベンチャープログラム)研究会の協力のもと、PAやMAPの手法を活かした集団作りについて、体験を通して学ぶ機会とする。
(2) コロナウイルス感染症の影響で学級や集団作りに悩んでいる教育関係者等に対して、新しい生活様式と連動した学級経営について考える機会とする。

4. 日程

9:30		12:00 13:00		16:00 16:30	
開 講 式	演習① アイスブレイク グループでの課題解決	昼 食	演習②・③ グループでの課題解決 ワークショップ ホワイトボード・ミーティング® 学校教育に生かす体験学習の展開	質 疑 応 答	閉 講 式

5. 主な活動内容



【数多くのアイスブレイクを体験】



【ホワイトボードを使っでの交流活動】



【参加者全員で試行錯誤しながら課題解決】



【活動の流れを可視化した振り返り】

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果 ※アンケート回収率94・7% (38名中36名)

	4	3	2	1
① 事業全体	35名 (97.2%)	1名 (2.8%)	0名 (0%)	0名 (0%)
② プログラム内容	35名 (97.2%)	1名 (2.8%)	0名 (0%)	0名 (0%)
③ 事業運営	36名 (100%)	0名 (0%)	0名 (0%)	0名 (0%)
④ 職員の指導・助言	36名 (100%)	0名 (0%)	0名 (0%)	0名 (0%)

(2) 参加者の声

- ・心も体も安心してプログラムに取り組めた。その配慮を学校でも意識したい。
- ・MAPについて、自分自身が楽しみながらアクティビティやプログラムの構成を学ぶことができ、よい経験となった。時間が限られた中でたくさんのアクティビティができたのも自分の中のバリエーションを増やせてとてもためになったし、自分でもやってみてみたいと思った。
- ・ファシリテーションやアイスブレイクなど初めて知るものがあり、身になる事業だった。大学生の中でも教師を目指す人が多く参加していけるような宣伝をしていけると、学生みんなのスキルアップにつながるのではないかと思った。
- ・ファシリテーターやファシリテーションなど今まであまり聞いたことがなかったので新しく知ることが多かった。また、多くの世代の方が参加されていてお話を聞くことができよかったです。
- ・アクティビティをホワイトボードに掲示していたのでフィードバックも充実していた。
- ・会話、コミュニケーションの大切さに再度気が付くことができ、多人数でこのような体験ができて久しぶりに楽しかった。

(3) 成果

- ・MAP研究会と協力して行うことで、学級や教育事業など実際の指導場面をイメージできるような構成で活動を進めることができた。
- ・学校関係者、シニアリーダー、学生など様々な参加者がおり、違った立場や目線での会話が聞かれ、広い視野での学びとなっていた。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、活動が制限される中で、消毒、ソーシャルディスタンスなど感染対策を講じた上で実施する方法を共有できるよい機会となった。
- ・ホワイトボード・ミーティング®の手法を活用することで、ファシリテーターとして指導現場での話し合い活動や振り返りの方法などを共有することができた。

(4) 課題

- ・1回目は、参加者への事業案内や広報が難しい。3月に各団体へ向けて事業案内を送付したが、年度の切り替えのため募集要項が他の資料に紛れるということが多くようだ。事業案内及び宣伝の時期や方法について再度検討していきたい。

担当：企画指導専門職 村山 浩康
鎌田 浩徳